

令和4年度 文系から理系までの学生を広く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム
自己点検・評価結果

令和5年5月

岡山大学AI・数理データサイエンスセンター

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
プログラムの履修・修得状況	○	<p>教育プログラムを構成する各学部の「数理・データサイエンスの基礎」については、令和4年度はほとんどの学部で必修科目であり、当該学部の教員自らがそれぞれ学部の状況に応じた内容の授業を行っている。</p> <p>授業において、数理・データサイエンスを専門とする大学院生等を活用しTAやSAを配置し、授業をサポートする体制を整備、修得を促したところ、令和4年度の単位修得率は全学部において90%以上であった。</p> <p>令和5年3月卒業者のうち、同授業を修得した64名に対して学長名の修了証を交付し、AI・数理データサイエンス教育推進部門のホームページで周知している。</p>	<p>大学院生等を活用したTAやSAを配置し、授業をサポートする体制は修得率の向上に貢献するものであり今後も継続する。また、学長名の修了証についても毎年交付する。</p>	<p>「数理・データサイエンスの基礎」は令和5年度から全学部で必修科目となり、学年進行で向上し、令和6年度には履修率は100%となる。</p>
学修成果	○	<p>令和4年度シラバス等を確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件であるモデルカリキュラムの5つの審査項目との対応関係があると認められる。</p>	<p>引き続きモデルカリキュラムとの対応を考慮しつつ教育内容を充実させる。</p>	
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	/			<p>受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しているが、現在集計中であり、今後説明や資料のわかりやすさ等について分析を行い、授業内容や授業方法の改善に活かしていく。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	<p>本教育プログラム受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、授業全体の満足度、説明や教材のわかりやすさなどを調査し、後輩等他の学生へ推奨度の向上につながる体制が整備されている。</p> <p>また、授業評価アンケートの「授業全体の満足度」に関する評価結果を全学生に公開することとしており、後輩等他の学生への推奨度の向上につながることを期待される。</p>	<p>当該授業の評価を高めるべく授業の内容を見直すことで、次年度履修生への推奨度の向上につなげていく。</p>	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	<p>教育プログラムを構成する各学部の「数理・データサイエンスの基礎」については令和4年度、当該学部の教員が授業を行うほとんどの学部において必修科目となっている。</p>		<p>令和5年度「数理・データサイエンスの基礎」については全学部で必修科目となり、履修者数は学年進行で向上することから、令和8年度には履修率は100%となる。</p>

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	/			本プログラムは令和3年度から開始し、令和5年3月卒業生が最初であり、現時点では具体的な進路、活躍状況、企業等の評価の確認はできていない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	△	<p>本学の卒業生が就職した企業や赴任した学校等を対象としたアンケート調査を実施し、本学卒業生に対する情報リテラシー・数量的スキルの獲得状況に関する意見を収集する予定である。</p> <p>また、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおける中国5国立大学の数理・データサイエンス部会によるシンポジウム等で、産業界を含む学外の意見を収集する。</p>	今後、アンケート調査の分析結果や中国5国立大学や産業界を含む学外の意見を収集して、教育プログラムの改善に活用する。	本学では、卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査は3年に1回実施しており、現在集計中である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	<p>本教育プログラムの「数理・データサイエンスの基礎」の授業は必修科目であり各学部の1年次生全員が受講できる体制となっている。</p> <p>この授業は、各学部の教員が授業を行うため、数理・データサイエンス・AIが各学部の領域で活用されている最新の事例、実例などを扱い、学生が学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解し興味を持ちやすい内容となっている。</p> <p>さらに、その他の授業科目についても、適宜具体的な事例を想定した演習を取り入れるなど履修しやすい工夫をしている。</p>	令和5年度から「数理・データサイエンスの基礎」については全学部で必修科目となり、今後も継続開講するため、授業内容については適宜改善を図っていく。	
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○	<p>授業評価アンケートを全学的に実施しており、結果を担当教員および各学部教授会にて全構成員で共有しており、個々の教員の授業内容の向上に寄与している。</p> <p>また、評価に問題のある授業については、AI・数理データサイエンス教育推進部門や各学部教務委員会等から担当教員へ助言を行う体制を整えている。</p> <p>AI・数理データサイエンス教育推進部門において、学生アンケートや関連学会の動向、他大学の授業内容、地域企業、官公庁からの意見を参考に、授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っており、今後も継続していく予定である。</p>	今後も継続して授業評価アンケートの分析結果や関連学会の動向、他大学の授業内容、地域企業、官公庁からの意見を参考に、授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っていく。	

本教育プログラムは令和3年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定